

令和5年度 事業報告

社会福祉法人

横浜市神奈川区社会福祉協議会

目 次

● 計画柱 1	誰もが「ひとりぼっちにならない」まちづくり	1 頁 ~
● 計画柱 2	「みんなのチカラを発揮できる」まちづくり	8 頁 ~
● 計画柱 3	「地域のチカラがつながり合う」まちづくり	11 頁 ~
● 別表 1	理事会・監事監査・評議員会・委員会・分科会の開催	20 頁 ~
● 別表 2	令和5年度 善意銀行 預託者及び配分先一覧	25 頁 ~
● 別表 3	令和5年度 神奈川区社協ふれあい助成金 助成一覧	27 頁 ~
● 別表 4	令和5年度 年末たすけあい配分一覧	33 頁 ~

[本報告内で出てくる略称について]

- 『市社協』は、横浜市社会福祉協議会について表しています。
- 『区社協』は、神奈川区社会福祉協議会について表しています。
- 『地区社協』は、各地区社会福祉協議会について表しています。
- 『民児協』は、民生委員児童委員協議会について表しています。
- 『ケアプラザ』は、地域ケアプラザについて表しています。

令和5年度 神奈川区社会福祉協議会事業報告

地域福祉保健計画における本会の事業報告を記載します。

計画柱1 誰もが「ひとりぼっちにならない」まちづくりを進めます！

基本目標1-①

誰もが地域の一員として安心して暮らせるよう、一人ひとりが抱える困りごとへの理解を広げ、困ったときに「助けてほしい」と言いやすいまちをつくります。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組計画（令和3～7年度）
<p>社協業務やネットワークを活かして、「知る」「理解する」ための様々な機会を提供します！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ あんしんセンターや生活福祉資金貸付、移動情報センター等の相談業務に寄せられる個人の困りごとをボランティアセンターや地区社協支援といった地域活動支援業務と結びつけ、地域に生活困窮、権利擁護、障がいに関する理解を広めていきます。 ■ 福祉施設と協力し施設見学や施設でのボランティア体験を企画し、幅広い世代に向けて障害について、認知症や高齢者介護について、子育てについて等の他者理解を広げていきます。 ■ 地域ケアプラザ・地域包括支援センターと共に地域の課題分析を行い、個人の困りごとを地域課題として捉える意識を根付かせるための研修や啓発イベントの機会をつくります。 ■ ボランティア活動団体や福祉保健活動拠点の利用団体とのつながりを通じて、個人の困りごとへの理解を広げ、困った時のサポーターを広げていきます。

令和5年度の具体的な取組

1) あんしんセンター《重点取組事業》

（予算額：348千円／決算額：327千円／財源：市社協受託金、利用料）

地区社協分科会において、地域向けのミニ研修テーマのひとつとして「あんしんセンターの事業について」を記載し、地域の中で事業の理解を深める機会を持てるよう周知しました。

2) 生活福祉資金貸付《重点取組事業》

低所得者世帯や困窮世帯に対し、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的とし、資金の貸し付けと必要な援助を行いました。

- ① 相談及び生活福祉資金貸付の状況について、地区社協会長・事務局会議や地区民生委員主任児童委員協議会にて報告・共有しました。
- ② 区生活困窮者自立支援事業担当課と、申請希望者の状況や貸付状況、コロナ特例償還対応、自立支援の業務について、情報共有を行いました。
- ③ 貸付の相談と合わせて食支援希望をされる方や、貸付には対象者として該当しなかった方向けに、区社協の生活困窮者支援の一貫で行っている食支援を提供しました。

3) 生活困窮者支援

困窮世帯への支援状況について地域福祉活動関係者の会議にて報告し、困窮世帯への理解をすすめました。

- ① 長期休み期間中の子ども食支援実施報告を地区社協会長・事務局会議や主任児童委員連絡会にて報告し、困窮世帯への支援の必要性を共有しました。
- ② 区社協の行う食支援について、相談支援機関/民生委員・児童委員向け説明チラシと食支援を利用される世帯の状況等をまとめた「数字で見る食支援」を作成し、配布・説明を行うことで、食支援に関する理解を深めました。

4) 移動情報センター（予算額：8,396千円／決算額：8,698千円／財源：市社協受託金）

移動に困難を抱える障がい者等からの相談に応じて、支援制度のご案内やサービス事業所等の紹介・コーディネートや、移動支援に関するボランティア人材の発掘・育成に取り組みました。

【障害理解講座の開催】

開催日時	令和5年6月23日（金）10:00～11:30
講師	療育おやこネットワーク gift
内容	前半は保護者の方から通学時の苦労や家を出るまでに工夫をしていること等をお話していただいたことで、移動することに困難を抱えている方が実際にいることを知っていただく機会となった。 後半は、楽しく体験し違いを知る、をテーマに発達障害の疑似体験ワークを行った。
参加者	19名



トークセッションの様子



イラストワークで伝わりにくさを疑似体験

5) 福祉施設との連携

令和4年度菅田・羽沢地区福祉施設連絡会において検討した施設車両を活用した移動支援について、令和5年度には、本格的に事業化する前段階として当該取組を試行しました。

6) 地域ケアプラザ・地域包括支援センターとの連携

区社協で作成している地域支援計画・振り返りシートの内容をケアプラザや地域包括支援センターの職員と共有し、個別相談の特徴や地域課題についてアセスメント・検討する取組みを継続して行いました。

6) ボランティアセンター（予算額：425 千円／決算額：253 千円／財源：市受託金）

ボランティアセンター広報紙『はばたき』（年2回発行）を通じて、個人や団体・地域における困りごとに関する理解を広めるため、ボランティア活動者や活動団体に向けて、ボランティアセンターに寄せられる依頼傾向などをもとに開催した講座のご案内や最近の募集情報、実際のボランティア活動の紹介などを行いました。

7) 福祉教育

福祉講座の実施や福祉機材の貸出しをとおして「知る」「理解する」機会づくりを進めました。

【講座実施件数】

種 別		相談 件数	対応 件数	内 容
学校	小学校	7 件	5 件	車いす体験・講座、高齢者体験、異文化理解、 盲導犬ユーザーの講話 (未対応2件は、調整つかず、連絡来ず)
	中学校	1 件	1 件	車椅子・視覚・聴覚・認知症講座
	高校	1 件	1 件	車椅子講座
	大学	1 件	1 件	地域活動者の講話、ボランティア受入の調整
その他	地域団体等	2 件	2 件	ボランティア講座、発達障害理解

【福祉機材の貸出し件数】

機材種類	貸出件数（台数）
車いす	5 件（25 台）
高齢者疑似体験セット	6 件（24 セット）
白杖	2 件（19 本）
妊婦体験セット	2 件（3 セット）
認知症 DVD	1 件（1 枚）
点字板・アイマスク	2 件（25 枚）

8) 福祉保健活動拠点（予算額：18,224 千円／決算額：21,261 千円／財源：市受託金、利用料）

【拠点利用団体調整会議の開催】

開催日時	令和6年2月5日（月）13:30～15:00
内 容	・団体紹介及びロッカー利用についてのアンケート依頼 ・窓口満足度調査 集計結果報告 ・福祉保健活動拠点 利用に関する確認事項等について など
参加者数	手話通訳2名含26名参加（26団体）※各団体出席者1名迄



計画柱1 誰もが「ひとりぼっちにならない」まちづくりを進めます！

基本目標1-②

一人ひとりの困りごとに気づくための仕組みをつくり、また世代や抱える悩みなどの違いをこえた、様々な人たちが交流できる場をつくります。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組（令和3～7年度）
社協のネットワークメンバーと共に交流の機会づくりを進めます！	<ul style="list-style-type: none"> ■ 障がい者やその家族からの要望の声が多い「災害時への備え」をテーマに、福祉施設や地区社協などの地域関係者と連携し、地域ケアプラザと共に地域との交流づくりを進めます。 ■ 地区ボランティアセンターや移動情報センターとのつながりを活かして、活動者と参加者（利用者）が垣根なく「お互いに助け合う」関係が築けるよう交流の機会をつくります。 ■ 福祉保健活動拠点がさらに個人と活動団体、活動団体同士の交流の場となるよう、拠点利用団体と一緒に交流の機会づくりを検討していきます。

令和5年度の具体的な取組

1) 地区社協活動支援〈重点取組事業〉

地区社協が開催する障がい理解講座や交流事業に対して、講師の調整や交流事業へのアドバイスをし、身近な地域での理解・交流を促進しました。

- 青木第一地区社協『ふれあい活動員研修～障がいや障がい施設について～』



青木第一地区 研修

2) 移動情報センター（予算額：8,396千円／決算額：8,698千円／財源：市社協受託金）

【移動情報センター広報誌「でかけY0！通信」の発行】

発行回数	「でかけY0！通信」 年1回発行
発行部数	500部
内容	令和5年度に実施をしたガイドボランティア交流会で寄せられた質問の内容を共有し、事業内容の周知に努めました。

3) 地区ボランティアセンター

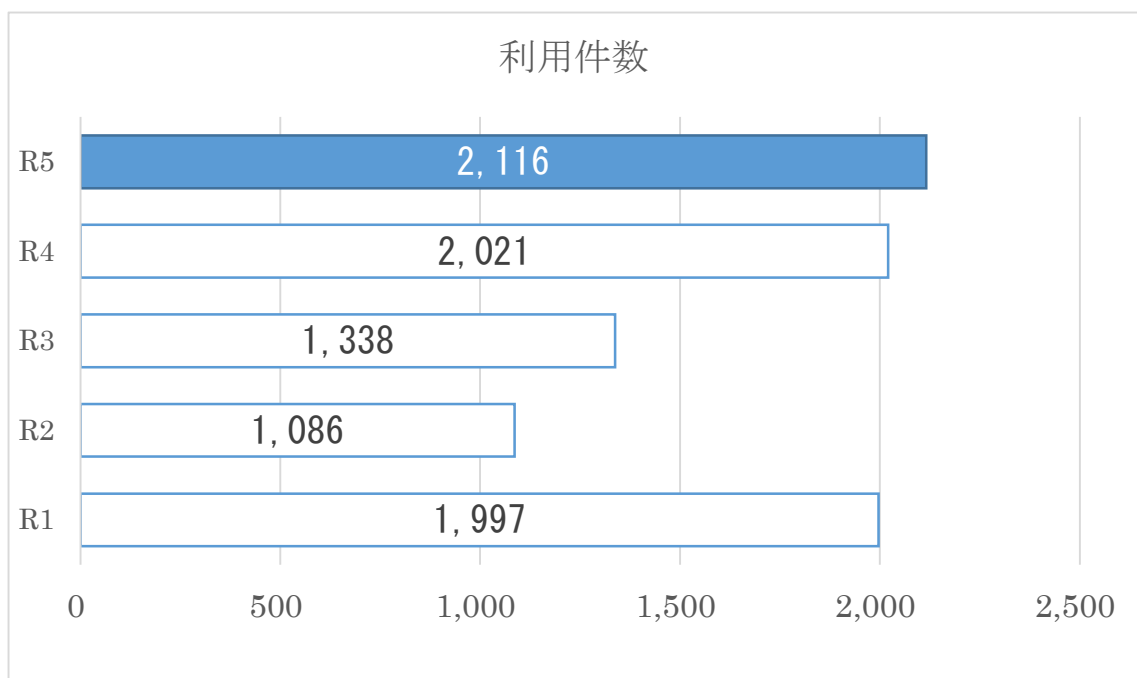
前年度実施した地区ボランティアセンター連絡会で収集した意見等をもとに、今後の連絡会の開催方法や形式について検討しました。

4) 神奈川区福祉保健活動拠点

(予算額：18,224 千円／決算額：21,261 千円／財源：市受託金、利用料)

活動場所の提供、窓口対応を通じて、利用団体のニーズ把握に努めるとともに、地域支援・サロン・子どもの居場所づくり等の情報を提供し、活動支援に努めました。また公正・公平なサービス提供と利用者ニーズに即した運営、施設間のネットワークづくりと連携強化に努めました。

指定管理期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
開館時間	9:00～21:00（日・祝日は17:00まで）
業務内容	拠点各室・印刷機・ロッカー・メールボックス等の貸出、ボランティア相談・活動紹介等



計画柱1 誰もが「ひとりぼっちにならない」まちづくりを進めます！

基本目標1-③

困ったときに身近な窓口で相談をすることのできる仕組みをつくります。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組（令和3～7年度）
区社協の相談機能についてさらに周知を進めていきます！	<ul style="list-style-type: none"> 区社協が相談窓口となるあんしんセンター、生活福祉資金、移動情報センター、ボランティアセンター業務について、民生委員・児童委員や保育園・学校などの地域の情報発信源となる関係者に周知徹底し、情報発信者を増やしていきます。
身近な相談窓口と専門相談窓口とのつながりを強化します！	<ul style="list-style-type: none"> 地区ボランティアセンターなどの地域住民による身近な困りごと相談の窓口を増やし、そこから民生委員や地域ケアプラザにつなげていく仕組みをつくります。

令和5年度の具体的な取組

1) あんしんセンター（予算額：348千円／決算額：327千円／財源：市社協受託金、利用料）

【契約・相談件数】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
契約件数	64件	59件	58件	47件	46件
うち新規	12件	10件	13件	4件	9件
うち終了	12件	15件	14件	15件	10件

【初回相談】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
件数	64件	64件	49件	37件	45件

2) 生活福祉資金貸付（予算額：5,686千円／決算額：5,685千円／財源：県社協受託金）

生活費の困窮や進学のためのお金に関する相談を受付、その相談内容に応じて生活福祉資金の申請支援や他制度の相談窓口の紹介を行いました。また、民生委員児童委員の改選後に主に新任民生委員に対して、生活福祉資金について知ってもらう研修を市社協とともに開催しました。

【相談件数】

相談内容 （貸付申請、償還相談に関して）	相談件数（件）				
	R1	R2	R3	R4	R5
コロナによる特例貸付金	—	9,679	3,717	451	460
本則の生活福祉資金貸付金	1,505	316	460	550	967

【貸付件数】

相談内容 (貸付申請、償還相談に関して)	貸付件数 (件)				
	R1	R2	R3	R4	R5
総合支援資金	2	1	0	0	2
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0
福祉資金	5	0	3	3	1
緊急小口資金	7	3	1	4	8
教育支援資金	22	11	11	19	8
不動産担保型生活支援資金 (要保護含む)	1	0	0	0	0
合 計	37	15	15	26	19

【研修】

生活福祉資金新任民生委員研修会(DVD、オンライン開催) 5地区 65名 受講

3) 移動情報センター (予算額 : 8,396 千円 / 決算額 : 8,698 千円 / 財源 : 市社協受託金)

■相談件数 : 216 件

■調整件数 : 806 件

4) ボランティアセンター (予算額 : 425 千円 / 決算額 : 253 千円 / 財源 : 市受託金)

■相談件数 : 40 件

■調整件数 : 60 件

5) 地区ボランティアセンター<<重点取組事業>>

各地区ボランティアセンターの話し合いの場や活動報告会に地域ケアプラザ等の職員とともに出席し、団体の現状や抱える課題等について把握・検討しました。

計画柱2 「みんなのチカラを発揮できる」まちづくりを進めます！

基本目標2-①

一人ひとりがいきいきと、自分に出来ることを地域で発揮できる環境をつくります。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組（令和3～7年度）
誰でも、思い立ったらすぐに参加できる機会を増やします！	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福祉施設や地域ケアプラザと協力しながら、誰でも参加できるボランティア活動体験プログラムを開発し、これまでボランティア活動をする機会がなかった人たちとの新たなつながりや活動を通じた生きがいを進めます。 ■ より身近なところでボランティア活動をはじめられるよう、地域ケアプラザエリアでボランティア活動体験の機会づくりを増やします。

令和5年度の具体的な取組

1) 地域ケアプラザと連携したボランティア活動の推進事業<<重点取組事業>>

身近なところでボランティア活動ができるよう、地域ケアプラザの地域活動・交流コーディネーターと連携し、「地域活動デビュー講座かなさんぽ～あなたのチカラを活かすコト×場さがし～」を菅田地域ケアプラザと共催で行いました。

■開催日時：全3回（10/5、10/21、11/6）

■参加者数：延べ14名＋第2回案内役1名＋第3回ゲストスピーカー3名

2) 移動情報センター（予算額：8,396千円／決算額：8,698千円／財源：市社協受託金）

【ガイドボランティア登録者】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
登録者数	64名	65名	51名	33名	43名

【ガイドボランティア交流会・フォローアップ講座の開催】

開催日時	令和5年12月6日（水）10：00～11：30
内 容	交流会として日頃のガイドボランティア活動についてお話をいただきました。フォローアップ講座として、NPO つばさ・さぽーとを講師に招き、事前にガイドボランティアの皆さまへアンケートを行った内容をもとに、活動に関する不安や困りごとへの対処法についてお話をいただきました。
参加者数	7名



フォローアップ講座の様子

3) ボランティアセンター《重点取組事業》(予算額: 425 千円/決算額: 253 千円/財源: 市受託金)
【ボランティアセンター登録者】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
登録者数	321 名	186 名	155 名	175 名	150 名
登録団体数	78 団体	56 団体	51 団体	56 団体	56 団体

【ボランティア入門講座の開催】

開催日時	①はーと友会場 全6回 令和5年7月19日、9月20日、11月15日、 令和6年1月17日、3月13日 いずれも10:30~12:00 ②菅田地域ケアプラザ会場 令和6年1月26日 10:30~12:00
内 容	・ボランティアの心構えについて ・ガイドボランティアについて ・車いす操作体験 等
参加者数	①延べ12名 ②2名

【傾聴ボランティア講座の開催】

10月に「傾聴ボランティアうさぎ」と共催で、「傾聴ボランティア入門講座」を開催しました。(計3回)11名の方が参加して下さり、2名の講師の講話等を通じて、傾聴における基本やスキルを学びました。



4) 第39回神奈川区社会福祉大会の開催(予算額: 174 千円/決算額: 179 千円/財源: 会費)

福祉活動功労者の表彰や福祉保健活動団体の活動紹介等を通して、活動者の意欲向上と区内における地域福祉の発展につながることを目的として、開催しました。

開催日時	令和6年2月1日(木)14:00~15:30
開催場所	神奈川公会堂 講堂
内 容	1) 福祉活動功労者への感謝状贈呈式 贈呈対象者 (団体) 11 団体、(個人) 32 名 2) 福祉保健活動紹介・事例発表 ①白幡こぶしの会 ②NPO 法人くじらぐも
参加者数	116 名



計画柱2 「みんなのチカラを発揮できる」まちづくりを進めます！

基本目標2-②

若い世代が地域の活動に参加しやすい工夫や仕組みをつくります。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組（令和3～7年度）
情報発信や情報共有の方法について、新たな取組を検討・実施します！	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存のホームページ以外の情報発信手段を検討します。 ■ 子育て世代にも見守り活動の担い手となってもらうため、説明会の開催や地域関係者とのマッチングを取りまとめます。 ■ 担い手不足に悩む施設や活動団体と協力し、学生が気になった時にすぐに参加できるボランティア講座や活動体験などの機会をつくりだします。

令和5年度の具体的な取組

1) 区社協ホームページによる情報の発信

ホームページを活用し、区社協主催事業・イベントの周知を行いました。

[令和5年度アクセス数] 33,860 ビュー

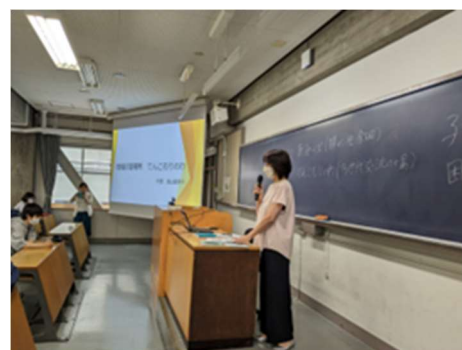


2) ボランティアセンター《重点取組事業》（予算額：425千円／決算額：253千円／財源：市受託金）

区内の高校生を対象に、車いすの操作方法等を学ぶミニ講座を開催しました。講座終了後、約10名の生徒さんが区内の医療施設でボランティア活動をしていただき、利用者の方が乗られている車いすを操作していただきました。

3) 福祉教育

神奈川大学一般教養科目「ボランティア論」を受講する学生に向け、講義の時間で地域活動者よりボランティア活動の現状をお話をしていただき、またボランティア体験の受け入れを行っていただく調整を行いました。



計画柱3 「地域のチカラがつながり合う」まちづくりを進めます！

基本目標3-①

より暮らしやすいまちをつくるために、地域の様々な人が継続して話し合う場や、取組を進めるための体制をつくります。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組（令和3～7年度）
日頃のつながりを通して継続的な話し合いの場を広げていきます！	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地区社協がそのネットワーク機能を活かし、地域活動者が集い、地域課題（＝一人ひとりの困りごと）について話し合う場づくりを支援していきます。 ■ 支え合いマップの作成だけでなく、その後の継続的な情報交換が続くよう支援していきます。 ■ 地域ケアプラザと連携し、地域ケア会議から協議体への発展を進めます。 ■ 福祉保健活動拠点の利用団体とのつながりを活かして、一人ひとりの困りごとを地域で受けとめる大切さを広げていくため、利用団体調整会議の場を活用し話し合う機会をつくります。 ■ 区社協「助成金」を活かし、話し合いの場づくりが広がるように支援します。

令和5年度の具体的な取組

1) 地区社協活動支援《重点取組事業》

地区社協の運営支援と組織強化を目的に、区内21地区社協の会長及び事務局が定期的に情報交換し、関係機関から情報提供をする機会として地区社協会長・事務局会議を開催しました（全部で年5回、8月までは2回に分けて分散開催しましたが、新型コロナウイルスが5類に移行したことで、10月より全21地区社協集合型の開催としました。）。

また、地区社協役員を対象に地区社協研修を行い、他区の地区社協の取り組みを学びました。（年1回）。

【第1回】第1回地区社協会長・事務局会議

開催日時	令和5年4月21日（金）10:00～11:00、14:00～15:30
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ① 地区社協会長・事務局会議の会長・副会長について ② 令和5年度 区社協事業計画（重点取組事業について） ③ 地区社協補助金の申請・報告について ④ 令和4年度 地区社協状況書（地区社協活動）ヒヤリングについて
参加者数	21地区38人

【第2回】第2回 地区社協会長事務局会議

開催日時	令和5年6月22日（木）10:00～12:00、14:00～16:00
内 容	① 今年度の地区社協研修のテーマについて ② 地区社協会長情報交換会について ③ 地区社協交付金（地区社協活動費・育成費・支援費）の交付時期について ④ ウィリング主催研修「地域づくりに生かせる組織運営を学ぶ」について 等
参加者数	21 地区 39 人

【第3回】令和5年度 地区社協会長情報交換会

開催日時	令和5年7月7日（金）15:00～16:30
内 容	① グループワーク 【テーマ：地区社協の運営について】
参加者数	17 地区 17 人

【第4回】第3回地区社協会長・事務局会議

開催日時	令和5年8月3日（金）10:00～11:30、14:00～15:30
内 容	1 今年度の地区社協研修について 2 神奈川区活動功労者の推薦について 3 区社協会費の納入について 4 今年度12月の地区社協会長事務局会議について 等
参加者数	19 地区 37 人

【第5回】地区社協研修会

開催日時	令和5年10月23日（月）10:00～12:00
内 容	① 地区社協全体会の動画視聴 ② グループワーク 【テーマ】 ①地区社協で活動していること ②動画視聴を通じ、自身の地区社協で参考できそうなこと
参加者数	20 地区 38 人



【第6回】地区社協会長会議

開催日時	令和5年12月19日（火）10:00～12:00
内 容	① 地区担当の見直しについて ② 令和5年度 地区社協活動費の用途について ③ 第39回神奈川区社会福祉大会参加者の取りまとめについて ④ 年末たすけあい配分事業について 等
参加者数	16 地区 16 人

【第6回】第4回地区社協会長・事務局会議

開催日時	令和6年2月26日(金) 14:00~15:20
内 容	1 神奈川県ふれあい活動補助金について 2 令和6年度 地区社協会長・事務局会議 年間日程について 3 令和6年度 総会日程・開催方法の確認について 4 区社協出張講座のご案内について 等
参加者数	20地区 38人

■各地区で個人の抱える困りごとについて地域としてできることについて話し合い、行った活動

- ・片倉地区 フードパントリーの開催支援
- ・菅田地区 安心ボランティア地域デビュー講座で「ボランティアとしての心構え」の講話

2) 住民支えあいマップ等を活用した取組み支援

「住民支えあいマップ」作り等をきっかけとした見守りや支え合いを広げる活動を進める地区に対し、必要に応じて後方支援を行いました。

3) 見守り活動（ふれあい活動）支援

地区社協がとりまとめを行う見守り活動（ふれあい活動）が円滑に進められるよう、区役所と協働し、ふれあい活動の地域への浸透及びさらなる充実を図ることを目的にふれあい活動員全体研修会を開催しました。

開催日時	令和5年12月15日(金) 10:00~12:00
開催場所	神奈川公会堂 講堂
内 容	1) 昨年度研修会の振り返り 2) 区内の活動事例発表 ①青木第一地区 ②羽沢地区 3) パネルディスカッション
講師等	・講師 武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科 教授 渡辺 裕一 氏 ・コーディネーター ほどがや市民活動センター センター長 北川 有紀 氏
参加者数	165名

また、各地区の個々の困りごとに対して地域でどのように支えるか話し合う場に出席し、活動推進に向けて助言等を行いました。

さらに、地区社協等からの依頼に基づき、地区単位のふれあい活動員研修会において、ふれあい活動についての講話や講師調整等、協力しました。

4) 生活支援体制整備事業（予算額：20千円／決算額：20千円／財源：市社協受託金）

地域における移動販売（販売元：(株)ダイエー）について、片倉地区・三枚地区の他、新たに六角橋地区への導入に向けた連絡調整を行い、移動販売を開始しました。また、(株)ダイエー・区役所・地域ケアプラザ等関係者との情報共有会を定期的に開催し、移動販売の運用に伴う課題整理や解決

に向けた検討及び移動販売に来る方の現状分析、共有を行いました。

開催日時	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年8月22日(火) 15:00~16:30 ・令和5年10月25日(水) 10:00~11:30 ・令和5年12月6日(水) 10:00~11:30 ・令和6年2月27日(火) 10:30~12:00
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・販売に伴う実績共有及び運用課題等の抽出 ・客単価等から見える現状分析 ・地域ケアプラザ等が把握する地域の声について共有 ・各販売先の課題または共通課題の解決に向けた検討 等
参加者	2層生活支援コーディネーター、区役所高齢・障害支援課(地域包括ケア推進担当)、(株)ダイエー

5) 福祉保健活動拠点 (予算額: 18,224千円/決算額: 21,261千円/財源: 市受託金、利用料等)
 昨年に引き続き対面での利用調整会議を開催しました。紹介及びロッカー利用についてのアンケート依頼、窓口満足度調査の集計結果報告、予約管理システム変更に伴う予約状況公開方法の変更等についてお伝えしました。

【利用調整会議開催状況】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
開催回数	1回	※開催中止	1回※書面	1回	1回
参加団体数	23団体	-	110団体	22団体	26団体

6) 区社協助成金

区内で行われるボランティア活動、地域活動や障がい者団体等の立ち上げを含めた活動への助成金を配分しました。

① 区社協ふれあい助成金 (財源: 市社協補助金、区社協善意銀行預託金、共同募金配分金)

- ◆受配団体 187 団体
- ◆助成総額 13,130,000 円

種別	件数	種別計
要援護者支援区分	138 件	11,186,000 円
障がい児者支援区分	15 件	810,000 円
福祉のまちづくり区分	22 件	714,000 円
健康増進区分	2 件	20,000 円
新規立上げ事業区分	10 件	400,000 円

② 区社協独自助成金 (財源: 区社協善意銀行預託金)

- ・子育て支援団体へ備品等更新助成 助成申し込み無し
- ・特別記念事業助成 1 団体 50,000 円

③ 年末たすけあい募金配分

・受配団体 138 団体 ・助成総額 17,136,000 円

種別	件数	種別計
事業配分：地域	77 団体	7,888,000 円
事業配分：団体	27 団体	1,605,000 円
施設配分	12 団体	752,000 円
地区社協育成助成金	21 団体	6,841,000 円
地域ケアプラザ連携 地域福祉推進事業助成金	1 件	50,000 円

※詳細は別表 3・別表 4 参照

④ 災害時要援護者支援事業助成金

・受配団体 2 団体 ・助成総額 40,000 円

7) 地域ケアプラザとの連携強化

① 地域活動・交流コーディネーター連絡会の開催

区内地域ケアプラザの地域活動・交流コーディネーターが月 1 回程度集まり、情報交換等を行いました。

【主な取組み】

- 1) それぞれの地域活動・交流コーディネーターが行う様々な業務の中で「子ども子育て支援」「障害児者支援」「福祉教育」の 3 つのテーマで情報共有を行いました。
- 2) ケアプラザが行う子育て・子ども支援についてまとめ、主任児童委員連絡会で報告し連携を図りました。
- 3) コーディネーターに必要な知識・スキルを身に着けるために連絡会の中で「多文化共生」をテーマにした勉強会を行い、また令和 6 年 3 月に開所した『多文化共生ラウンジ』の見学を行いました。

② 生活支援コーディネーター連絡会の開催

区内地域ケアプラザ等の生活支援コーディネーターが月 1 回程度集まり、市体制整備事業推進会議の報告や各地域ケアプラザからの情報提供等を行いました。

【主な取組み】

- 1) 連絡会内での情報交換
- 2 層生活支援コーディネーターが、日々の業務の状況を共有・報告しました。
- 2) 班活動による検討
- 2 層コーディネーターがテーマごとに班に分かれ、自主的に検討を進めました。

①見守り・つながり班

各地域ケアプラザ等より「見守り」に関する情報をアンケートにて募り、その内容をもとに連絡会の中でグループワークを行いました。
グループワークの内容は再アセスメントし、課題を共有しました。

②広報班

生活支援コーディネーターの役割等を地域・企業等へ周知するため、広報紙を作成しました。(作成にあたっては、紙面をより親しみやすい内容とするため、浅野学園美術部にイラストを作成・協力いただきました。)

③ コーディネーター合同研修会の開催

開催日時	令和5年8月28日（月） 14:00～16:30
内 容	地域ケアプラザ等の地域福祉保健計画における地区別計画推進の支援をテーマに、地域活動・交流コーディネーター・生活支援コーディネーターから計3事例を発表してもらい、他のコーディネーターの事例を知る機会を作りました。また、各発表に対して講師の講評をいただきました。
講 師	豊田 宗裕 氏（聖徳大学社会福祉学科 教授）
参加者数	14名（コーディネーターの人数）

④ 地区支援計画・振返りシートの共有

社協として作成している地区支援計画および振返りシートを担当エリアのケアプラザの職員と一緒に話し合い、それぞれの立場から地区支援について考え、共有する機会をいくつかの地区を選定し取組みました。

⑤ 地域ケア会議への参加

主催	レベル	内容
反町	個別1回	認知症（または認知症疑い）の方とそのご家族の支援について
六角橋	個別2回	認知症高齢者の方の地域生活やその支援等について
片倉三枚	包括1回	コロナ禍3年間において、地域の高齢者になにが起こっているか？

計画柱3 「地域のチカラがつながり合う」まちづくりを進めます！

基本目標3-②

地域や個人の困りごとの解決のために、区役所・関係機関や、区内の企業など、様々なチカラがつながり合う仕組みをつくりまします。

区社協の取組の方向性	区社協の具体的な取組（令和3～7年度）
福祉施設・企業と地域活動とを引き合わせるコーディネートを進めます！	<ul style="list-style-type: none"> ■ あんしんセンター業務について福祉関係者に正しく理解を進めるため、研修の機会をつくりまします。 ■ 障がい者やその家族と地域をつないでいくために、障害者後見的支援制度のあんしんマネジャーをはじめ障害福祉関係者との連携を強化します。 ■ 福祉施設や企業、事業所のメリットとなることを増やし、地域貢献活動を進めます。 ■ 食支援を通じて区こども家庭支援課・生活支援課と連携するなど、個人やまちのそれぞれの困りごとに応じて、区役所各課と協働していきまします。

令和5年度の具体的な取組

- 1) あんしんセンター（予算額：348千円／決算額：327千円／財源：市社協受託金、利用料）
以下の通り、あんしんセンターの事業概要について、関係機関向けに説明する場を設け、事業の理解を広げまします。
 - ①区包括連絡会（主マネ分科会）主催の新任ケアマネジャー研修会にて事業説明を行い、あんしんセンターの概要やスムーズな制度利用につなげるための留意点について共有しました。
 - ②成年後見制度の利用促進、制度理解を進める区サポートネット全体会において、あんしんセンターから成年後見制度へ移行した事例共有を行い、関係機関との連携方法や課題等について意見交換し、あんしんセンターの理解を深める機会としました。

- 2) 障がい児・者支援
神奈川区地域自立支援協議会の事務局として、障害福祉関係者・事業所との連携を深めるとともに、区民まつりでブースを出店し、区民に対する障害理解や啓発を行いました。また障害関係事業所の「つながり」づくりを目的とした話し合いの場を設定し、架空の事例をもとに各事業所で取り組めることについて話し合いを行いました。

3) 生活困窮者支援

① 個人・世帯への一時的・緊急的な食支援

生活にお困りの方の相談窓口である区生活支援課やその他各課、地域包括支援センター等と連携して、相談者の状況に応じた食支援を実施しました。また、提供する食料はフードバンクかながわや区役所のフードドライブ等から寄付をいただきました。

【世帯への支援件数】

年度	R1	R2	R3	R4	R5
件数	73件	108件	82件	77件	73件

【フードドライブ件数等】

寄贈元	頻度等
フードバンクかながわ	毎月1回
区フードドライブ	年間14回
その他	延べ2件 善意銀行物品寄付として、区内団体が主催するフードドライブ等で集めた食品を寄付いただきました。

② 家電製品等の寄付コーディネート

遺品整理・福祉整理を行っている企業より家電製品等の寄付を受け、必要とされるご世帯へ提供するためのコーディネートを行いました。(6件)

③ 長期休み中のこども食支援の取組み

夏休み期間及び冬休み期間中の家計や子どもたちの「食」のサポートを目的に、区役所こども家庭支援課や主任児童委員等経由で必要と思われる世帯に声をかけ、およそ1か月分(冬休みは2週間)程度の食料を希望される世帯の子どもたちにお渡ししました。

■夏休み子ども食支援：10世帯

■冬休み子ども食支援：8世帯

4) 子ども支援事業

① 地区のネットワークづくりの取組支援

地区域ごとに行われている子ども支援ネットワークの取組についてケアプラザ等と連携して、活動の支援を行いました。(5か所)

② 区域のネットワークづくり

1) 主任児童委員連絡会への参加(毎月1回定例)

区内の子ども支援事業の活動について情報提供・情報共有を行いました。

また、令和6年3月に主任児童委員連絡会の中でこれまでの子ども支援事業の取組み経過等についての勉強会を行いました。

2) 子どもの居場所リーフレットのリニューアル

区内で子どもの居場所等の活動を周知するために2017年に作成したリーフレットを改訂しました。改訂したリーフレットについては、主任児童委員をはじめ地域活動団体に配布を行うとともに、地域ケアプラザ等の区民利用施設に配架をお願いしました。



③ 子ども食堂等の子ども支援活動団体への支援

区内の活動団体へ不定期に、集まった食料寄付の中からお菓子類や食材、お米等をお渡ししました。

【活動団体からの声】

- ・ふだん買わないお菓子等をいただけていつもありがたい。
- ・こどもたちはお菓子があるととてもうれしそうです。

2) 区役所との連携

① 区との定例会の開催

神奈川区地域福祉保健計画推進に関わる事項の検討を中心に、神奈川区福祉保健課と定例的に打合せを実施しました。

② 地域福祉保健計画推進会議の開催

区域の推進会議（年3回）を開催し、計画推進に取り組んだほか、地区が主体となっている地区別計画推進会議の開催も区・ケアプラザ等と連携して支援を行いました。